

# 日本語を材料にした脳波研究の現在と今後

## 時本真吾氏（目白大学教授）

脳科学への社会的関心を背景に、言語の神経科学的研究が世界的に急増している。中でも脳波は、実験装置と維持費が比較的安価なことも手伝って、言語の脳科学への入り口となることが多い。とりわけ、事象関連電位(ERP)は歴史の長い安定した指標で、多くの知見が蓄積されている。但し、言語のERP研究は暗黙の理論的背景を強く引きずっているし、ERP成分の解釈にも異論が出始めている。本発表では、主に日本語を材料にしたERP研究について、その成果と問題点を指摘する。また、今後への展望として脳波の大域的同期研究の可能性に触れる。

日時：2011年7月19日（火）18：15－19：45

場所：名古屋大学全学教育棟・北棟406号室

問い合わせ：玉岡賀津雄 (ktamaoka@lang.nagoya-u.ac.jp)

事前予約不要・参加費無料

2011年度 名古屋大学大学院国際言語文化研究科  
日本語教育学講座第11回講演会  
大学院生のための言語研究方法論養成プロジェクト